

# ぱれっと

2008  
3月  
No.103

## 目次

- P. 2~3 すぽっとらいと 青少年の自立をサポート  
「特定非営利活動法人 ミヤギユースセンター」
- P. 4 サボセン日記 団体の取組を振り返ります。「図書委託販売」
- P. 5 ミニサボス サボセンをもう！  
サボセン広運 会議の合同にほっと一息 「新報の発行」
- P. 6 アラカルト NPO・小さな市民活動団体の運搬の経験シリーズ  
第3弾 展覧場・第4弾 見返の美人編
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など

「参加する、実践する、楽しむ」がキーワード  
～シニア元気英学校～



<「英学校」の授業風景>

2006年4月の開校以来、大勢の高齢者の方が楽しく学んでいます。「シニアの皆さんが試験なしで入学でき、自由に学び、遊び、仲間づくりをする」楽しい学校。これがこの学校のキャッチコピーです。とてもユニークですね。

「閉じこもらないで、「出てくれば」、うーっ！仲間がいっぱい！よく学び、よく遊び、楽しいわ！」と褒め激励校長先生。面白いのは意外授業で「ホームルーム」「抽選会」「部活」「遠足」ありということ。一度覗いてみてはいかがでしょうか？

【連絡先】

仙台市太白区鹿野町18-35  
TEL 022-248-5765 FAX 022-248-9775

## すぽっとらいと

### 青少年の自立をサポート

#### 「特定非営利活動法人ミヤギユースセンター」

市民活動サポートセンターを会場に開催されている「もう一つの進路説明会」をご存知ですか。今回は、この進路説明会を定期的に開催している特定非営利活動法人ミヤギユースセンター（以下ミヤギユースセンター）を訪ね、活動の内容や団体運営の秘訣について代表の土佐昭一郎さんにお話をうかがいました。



ミヤギユースセンター  
代表 土佐昭一郎さん  
～個別相談会の様子～

### ●自立のための進路を支援

ミヤギユースセンターは、中卒・高校中退、不登校などで悩んでいる青少年の自立をサポートするために、2001年9月に設立した団体です。代表の土佐さんが、活動を始めようと思ったきっかけの一つは、当時宮城県では、高校中退者や不登校生徒の受け入れ先が少なく、その必要性を強く感じたためです。行き場を失くし悩んでいる子どもたちに、高校を卒業するためには多くの方法があることを伝え、相談の窓口になりたかったのだとおっしゃいます。

例えば、その方法の一つに高校卒業程度認定試験（高卒認定試験）があります。この試験に合格することで、高等学校卒業と同等以上の資格があると認められ、大学受験など次のステップへ進むことができるのです。

ミヤギユースセンターでは、「もう一つの進路説明会」と題し、一人ひとりにあった進路を考えるための情報提供や個別相談会を月一回位のペースで定期的に開催するほか、週4日間教室を開き、子どもたちへの学習指導を行っています。

### ●情報を発信し続ける

教室をスタートした頃は4名だった生徒が、時期によってばらつきはあるものの、今では50名を超えるようになりました。また、相談も新規だけで年間250件と受けるそうです。

ミヤギユースセンターでは、活動をより多くの人に伝えるために、さまざまな取り組みを行っています。1つ目はホームページによる情報発信です。自宅にいながら情報を入手する手段として、インターネットはいまや欠かせません。ホームページでは、ミヤギユースセンターがどんな団体で、何を目的に、どのような活動を行っているのか、具体的にわかりやすく紹介しています。学習の様子を写真入りで紹介したり、卒業生のメッ

セージを読むことができたり、場の雰囲気や成果を伝える工夫も忘れていません。その結果、かなりの情報をホームページから入手することができるのです。

2つ目は、紙媒体による情報発信です。進路説明会や個別相談会開催のお知らせは、チラシを作成してサボセンをはじめとする公共施設へ配架しています。もちろん、「骨プロ」\*1も活用しています。また、毎年秋に開催される「せんだいCARES」\*2にも積極的に参加し、パンフレットへの情報掲載を続けてきました。このパンフレットは協賛企業へも配布されるため、会社でパンフレットを手にした父親から相談が寄せられるなど、普段とは少し違った嬉しい反応があったそうです。

チラシにしても、パンフレットにしても、配布と同時に即、大きな反響があるわけではありません。けれども、団体の活動を紹介する機会があれば積極的に参加しているそうです。「情報発信しつづけることが大切。活動を始めたなら自然と人が集まってくると思っている人が多いですが、地道な努力が必要なのです。」と土佐さん。

### \*1 骨プロ(仙台に情報の背骨を通すプロジェクト)

市民の皆さんの情報の受発信を支援するために、仙台市内の9つの公共施設が協力して行うプロジェクトです。仙台市内の9つの公共施設に、市民活動団体のイベントチラシを、配置するサポートを行っています。

### \*2 せんだいCARES

仙台のまちのお世話(ケア)をしているNPOの活動に、市民や企業が参加することで仙台をより住みやすい街にしよう、2002年から始まった市民参加型のまちづくりキャンペーン。NPOの活動に参加するきっかけの一つとしてパンフレットによる情報提供を行っており、2007年は、25,000部のパンフレットを協賛企業や公共施設など仙台市内に配布し、市民の皆さんに届けました。

(主催:せんだいCARES実行委員会)

## 団体紹介

### 特定非営利活動法人ミヤギユースセンター

中卒・高校中退・不登校、軽度の発達障害などで悩んでいる方の「未来を創造するサポーター」です。学習支援、自立のための進路支援、相談会を開催しながら、青少年の自立を支援しています。

### <団体連絡先>

〒983-0852  
仙台市宮城野区権岡2丁目2-8-203  
TEL 022-256-7977  
http://www.miyagiyouht.npo-jp.net  
Mail:miyagiyouht@npo-jp.net



学習時間の1コマ

### ●NPO支援施設のフル活用

ミヤギユースセンターは、サボセンの事務用ブースを2002年9月から2005年5月まで使用していました。事務所をサボセンに置くことは、団体としての信用保証につながったといえます。一方、学習指導は、宮城県が設置したNPO活動の支援施設「みやぎNPOプラザ」の貸室を利用して行っていました。二つの施設を目的に応じて上手に使い分けながら、着実に活動を積み重ねてきました。そして、2005年6月から、仙台駅東口近くに教室を設置し、新たな拠点での活動を行っています。サボセンでは、事務用ブース卒業後も、貸室を使用して「もう一つの進路説明会」を月1回くらいの割合で開催しています。

### ●ゆるがないミッション(使命)

行政や企業に左右されず、利益主義にならず、地域に根ざした教育を実践できるよう、NPOとして活動を始めてから今年で7年目を迎えました。

NPOの良さは合議制にあると土佐さんは感じています。長年の企業での勤務経験からトップダウンというやり方に疑問を持っていたそうです。ミヤギユースセンターでは、運営方針など組織に関する意思決定は理事会でなされ、活動の方向性が個人の考えに左右されることはありません。また、組織のミッション(使命)が明確なので、活動自体が決してぶれることがないのだといえます。NPOにとってのミッションとは、「ある課題の解決にむけて、誰のために、何をするか」をわかりやすく定義したものです。

「さまざまな事情により、やむを得ず不登校となった生徒や高校中退者のために、自分で考え、自分の足で立てるような支援(サポート)をすること」これがミヤギユースセンターのミッションであり、設立当初から一貫して目指すところでした。

### ●成果は子どもたちの自立

取材のために教室を訪ねたのは、平日の午後。入れ替わり立ち替わり、生徒がやってきては生徒一人ひとりに用意された課題を受け取り、学習に取り組んでいました。先生は、生徒がわからないことがあった場合のみサポートします。この独自の指導スタイルが、自分で生きる力、生きていく力を育てているのです。その日は、ボランティアの大学生が先生として学習をサポートしていました。彼もかつては不登校になり引きこもった経験を持ち、同じように学習していた一人だったということです。

一人ひとりがそれぞれの理由から、ミヤギユースセンターに通ってきます。今まで、約170名が学び、巣立っていきました。進路に悩む若者やそれを見守る方たちには、「まずは相談に来て欲しい」と土佐さん。悩んでいる子どもたちが元気になって、自分の足で歩いていくことが何よりの成果と語ります。

ミヤギユースセンターでは、生徒たちの声に耳を傾け、これから一人ひとりにあわせた丁寧な指導を行いながら活動を続けていきます。

(担当:小松 州子)



仙台市民活動サポートセンター発行  
「ぱれっと」平成20年3月号